



道

2023年10月1日
(第102号)

二三歳から三五歳までの一二年間、三重県伊勢市にある私立高校に勤めた。公立学校教員試験に落ちた僕に声をかけてくれたのは学園理事長の親族だったNさん。僕が大学時代後半に働いた朝日新聞名古屋本社編集部でお世話になり、また、娘さんの家庭教師を務めた縁もあった。「学園に労働組合ができて理事長は苦勞している。理事長を助勢してほしい」。Nさんはそう話した。▼教員になり、学園対労働組合の渦の中に巻き込まれる。組合ができる前は劣悪な労働条件だった、職員は言いたいことも言えず小さくなっていった、組合ができて労働条件が改善され職場に活気が戻りつつある、など、よく理解できた。新任教員全員が労働組合に加入する。僕も。▼学園で大きな力を持つ理事に呼び出された。そこにはNさんもいた。「なんたることだ。組合を辞めるか、学園を辞めるか、どっちかにせえ」。僕はどちらも辞めなかった。一年後、一緒に組合加入した二名の教員が「任期」を理由に雇用継続を拒まれ学校を去る。学園側による組合切り崩しで徐々に組合脱退者が出ていた。僕への「圧力」も続いた。教員二年後、僕に事務職への配置転換辞令が出た。組合はこれに抗して闘うも敗北、これを機に組合は消滅に向かう。僕が組合を潰したと言えなくもない。▼さらに二年経って、「改悛の状あり」とされた僕は教員に復歸する。その時、「いくらでも頭を下げる、しかし、心までは売らんぞ」などと思っていた。▼あの頃、Nさんはじめ周囲の方々と丁寧な「対話」し言葉を尽くし、恩に報いる相応の態度が必要であったのだろう。Nさんに、たいへん迷惑をおかけした。心よりお詫びしたい。(労働組合が大事という考えは今も変わらないが)。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

電話：090-5366-1497

メール：michi-care@outlook.jp

ホームページ：https://michi-care.jimdo.com/

〈道〉LINE：https://lin.ee/zCG7Iyp



林道也

